

思い、やる、人。

www.hamada-m.com

浜田まさよし 通信



NO.9

発行日:2007年12月10日 発行/公明党参議院比例区第8総支部

太田代表に要望書を渡すNGO代表メンバー



10月30日 国際ラウンドテーブルで挨拶する浜田 (右から2人目、エイズ・結核問題 活動家ウィンストン・スル氏)

08'北海道洞爺湖サミット 日本が感染症対策でリーダーシップを!

「ストップTB(結核)ジャパン・イニシアチブ」

11月6日、浜田まさよし(外交部会長)は国会内で会合を開き、NGO(非政府組織)100団体で構成する「2008年G8NGOフォーラム」から08年7月の北海道洞爺湖サミットへ向けた国際保健分野に関する要望を受けました。

国内における日本人の結核にかかる割合は、G8の中で唯一の結核中蔓延国(人口10万にあたり20.6人。他のG8はすべて同10人以下)であり、さらに世界に目を転じれば、人口3分の1が結核保菌者と推定され、年間900万人が発症し、予防も治療も可能な疾病でありながら160万人もの方々が毎年、命を落としています。そして今問題となっているのは、抗生剤が効きにくい「多剤耐性結核菌」や治療法が見つからない「超多剤耐性結核菌」が蔓延するリスクが日本でも高まっていることでもあります。

浜田は公明党のマニフェスト2007に、「日本の先進的な結核対策で世界に貢献するため、「ストップTB(結核)ジャパン・イニシアチブ」を提案し、世界の年間死亡者の1割(16万人)の救命に努めます」を盛り込み、このマニフェスト達成のため、これから力強く行動してまいります。

Hamada Masayoshi Tushin

中小企業活性化対策本部 下請中小企業の底上げ推進!

11月14日、浜田は(同対策本部事務局長)首相官邸に太田昭宏代表らとともに、町村官房長官を訪ね、当面の緊急対策として下請け中小企業の底上げに関する福田首相宛での申し入れを行いました。具体的な要望としては、現場からの強い声を受け、高騰する原油・原材料価格の転嫁の徹底、中小企業金融の返済繰り延べ、公共事業における最低制限価格の完全実施を要請。

町村官房長官は、「一つひとつ細かい手がつけられていない課題を指摘してもらった」とした上で、関係省庁に指示され、早くも11月27日政府系金融機関からの融資について返済条件の緩和策が発表されました。



町村官房長官(中央)に下請け中小企業の支援を申し入れる

参議院外交防衛委員会 守屋前次官を喚問

11月15日、浜田は参院外交防衛委員会で、防衛専門商社の元専務・宮崎元信容疑者II業務上横領容疑などで逮捕IIから過剰接待を受けた守屋武昌前防衛事務次官を尋問しました。

証人喚問の中で、浜田は2000年から7年間で609人が民間「天下り」していることで、「天下り」のつけが調達準備品の価格に上乗せとなり国民の負担となっていることを指摘するとともに、防衛省と防衛関連企業の癒着の根源となるため、職員の再就職には「天下り防止法」で対応することが必要である。と述べ、前次官の公務員倫理規定違反を鋭く追及しました。



証人に尋問する浜田

浜田、動く!語る!



11月12日 世界の人権問題に取り組むヒューマンライツ ウォッチブラッドアダムズ氏と意見の交換



11月3日 日吉地域(矢上小学校)での防災訓練に参加



10月20日 あすなろホーム祭りに参加



10月18日 制憲祝法改正実現に向けた大集会にて

浜田まさよし Profile

●昭和32年2月28日、大阪生まれ、横浜育ち ●横浜市大綱中学、神奈川県立横浜翠嵐高校、京都大学工学部卒業 ●旧通商産業省(現在の経済産業省)に入省 ●在職中に、バリアフリー住宅の実現、化学物質対策の抜本強化、電子材料やバイオ技術の産業化など、数々の実績を重ね、平成15年6月、生物化学産業課長を最後に退職 ●平成16年7月、参議院議員選挙初当選 前外務大臣政務官 <公明党>外交部 部会長、安全保障部会副会長、特殊法人等改革委員会 事務局長、中小企業活性化対策本部 事務局長



若者の未来を語る

The future of the youth

「若者がもっと、輝くために、いま、家庭・学校・社会ですべきことは――」

てい談者

水谷修 「夜回り先生」※1

浜四津敏子 公明党代表代行・参議院議員

浜田昌良 公明党参議院議員

※1 水谷 修(みずたに・おさむ) 1956年、神奈川県横浜市生まれ。上智大学文学部卒業。83年に横浜市立の高校教諭となる。2004年9月に高校教諭を辞職。中・高校生の非行防止と更生、薬物汚染の拡大防止のために、全国各地の繁華街で「夜回り」と呼ばれるパトロールを行う。



浜田と高校の同級生でもある「夜回り先生」こと水谷修さんと、公明党代表代行・参議院議員の浜四津敏子さんと、「ひきこもりと不登校」「現代の親子関係」「若者が夢を持てる社会とは」といった内容について語り合いました。

実態を把握できないひきこもり

水谷 現代の若者を取り巻く問題の一つに「不登校とひきこもり」があります。まず正確な現状をぜひ知っていただきたいと思えます。

特定の理由がなく年間三十日以上授業を欠席している児童・生徒を不登校というのですが、文部科学省の統計では、年々数値的には減っているのです。それは各地にできた適応指導教室に通っている子どもたちや、保健室登校の子どもたちが出席扱いになっていることが大きいのです。だから数値上では不登校の子どもの数は減っています。

でも、現実には減っていない。むしろ深刻化、長期化しているのです。

ひきこもりが長期化する二つのつながりがあります。僕の所にも二十代のひきこもりの方から相談がきます。ある人は中学二年生で不登校になり、ひきこもってしまつて十三歳から人とふれあっていないのです。ニートは単に働けないというだけではなく、人と接することができないほど心を病んでいるという側面もあるのです。

浜四津 本筋にそつとですね。ある精神科医のお話では、ひきこもりのきっかけの七割が不登校とのことです。またひきこもりが家庭内暴力と密接な関係にあるこ

と聞いた調査があります。それによれば、イギリスは八〇%、アメリカでも七〇%の子どもが「はい」と答えているのに、日本は四十五%で最低の結果でした。半分以上の子どもが家に帰っても安らげないと思つているのです。

水谷 家庭が楽しくないから、携帯電話やゲーム機に逃げ込んでいて、朝方までメールを打ったりするわけです。僕は夜の十一時から朝の六時までが親が携帯を預かるべきだと言っているんですが、結局は、親が道具の使い方をきちんと教えずに子どもたちに渡してしまつた結果です。

浜四津 子どもたちは家庭でも安らげず、学校も楽しくない。結局、居場所をなくしてしまつているわけですね。

水谷 そつとです。本来、学校は楽しくなければ学校じゃないんです。

浜田 多種多様な教育機関ができれば、子どもたちが自分の個性や才能を伸ばすた

います。

個性を活かせる社会を

水谷 なぜ子どもたちは不登校になったり、心を病んでいたりするのかと考えると、子どもたちの心がすごく弱くなつていふことに気づきます。いまは中学生でも相手の目を見て握手ができない子がいっぱいいます。生きる力がどんどん無くなつていふのです。

浜田 私は、この一年間に何度かアフリカに行ったのですが、この学校を訪ねても驚くのは子どもたちの目の輝きです。みんな口々に、将来はエンジニアになりたい、また洋裁がしたいなど、自分の夢をキラキラとした目で語るんです。なかなかいまの日本の子どもたちには見られないことですね。

水谷 それはとてもいいことだと思えます。ただ問題は、各地の教育委員会でも、不登校の子どもたちが日常何をしているかを把握していないことです。それを把握するためにも、学校や自治体、そして教育に携わっているNPOなどが連携を密にしていくことが大切だと思

たリストカットも、集中するのは貧富の差が激しい地域です。そつと地域や家庭では、その子どもたちの親自身「心の準備」を授けていないことが多いと言えつと思つます。そつと理由は家族の困らんがなくなつたことにあるのかも知れません。家族で話す余裕すらない。

社会の中心軸に教育をおくこと

浜四津 アメリカ、イギリス、日本、韓国、台湾、マレーシアの六カ国の小学校六年生に、「家に帰つたらほつとするか」

めの選択肢が増えますね。自分の将来にいろんな選択ができるからこそ、自由に夢を描けるし、そこでは子どもたちの目が輝いていくのでしよう。教育を中心においた社会をつくっていくためにも、さまざま検討の余地はあると思つています。

浜四津 子どもは「時代の縮図」そして「社会の未来を映し出す鏡」です。子どもの目線から、子どもたちの幸せのための教育・社会との原点に立ち返つて、これからもしつかり取り組んで参ります。

水谷 若者が未来に希望を持てる、そつと社会をつくるために、我々もそれぞれの立場で協力し合いながら頑張つていきたいと思います。

